

2017年12月10日 茅ヶ崎教会での分かち合い（マルコ1：1～8）

待降節第一主日の市岡神父様のお説教は、聖霊が乗り移って圧倒されるような感じでした。（私は拍手をしたい気持ちになりました。）皆さんも恐らく時間を忘れて、シ～ンと聞き入っておられましたね。

フランシスコ教皇様が丁度ミャンマー、バングラデッシュを訪問されている時でした。教皇様はさながら、平和の使徒として神からのメッセージを行動で示しておられると。仏教が優勢なミャンマーとイスラム教のバングラデッシュ中で、フランシスコ教皇様はそれぞれの国情を承知のうえで、バングラデッシュへ逃れたロヒンギャの方々へ「世界が無関心であったことを」謝罪されました。宗教はどちらにも偏らないで「教会は境界に立つ」と大阪での難民移住移動委員会の研修会で名古屋教区の松浦司教様がと言われたことを引用されました。

大阪市の生野、猪飼橋のフィールドワークでの在日朝鮮人、韓国人の児童、学生の教育費支援の日本の役所の対応と、韓国（民団）と朝鮮総連の人々の協力と子供たちには何も罪がないのに、差別されていること。また東アジアの緊張した雰囲気の中で、私たちは「目覚めている」ことが求められているのです。

今日の入祭唱は（イザヤは）「主は民を救いに来られる」と語り、集会祈願は「父である神は悩み苦しむ世界に救いの道を備えてくださいます」と、だから「私たちが心から主に立ち返り、キリストと共に歩むことが出来ますように、聖霊を豊かに注いでください」と祈ります。救いと言われて、具体的に何を考えておられますか？

（高松教区の諏訪司教様のお話で）プロテスタントの牧師さんたちとエキュメニズムの会議に出席した時に、隣の女性の牧師さんに、「洗礼は何時受けられましたか？」とお聞きしたら、その方が「救われたのは20歳の時です」と答えられて、ちょっとびっくりなさったそうです。洗礼が救いと言われて、皆さんはいかがですか？

今日は、マルコ福音書の冒頭が告げられました。「神の子イエス・キリストの福音の初め。」つまり、イエス様は父である神から遣わされたキリスト＝救い主であり、その方の告げた知らせこそ、福音＝良い便りというのです。マルコ福音書はイエス様が十字架上で亡くなった時、神殿の垂れ幕が上から下へ、真っ二つに裂かれて、この世界から神の世界へとイエス様が生き抜かれて、復活されたと記します。そしてローマの100人隊長が「この方は本当に神の子だった」と証言します。福音書は一貫して神の子イエスこそ救い主であり、その方と共に人生を歩むことが、キリスト者、洗礼を受けてその決意をもって歩むことで

す。

ですから、救いは福音を生きること、イエス様のことばと行いを通して語られ、示されたことです。そこで、預言者イザヤの書で語られた洗礼者ヨハネ、洗者ヨハネとも言います、が登場します。

友人の子供さんが小学 5 年生の頃、待降節に教会学校から帰って来て、ひどく興奮しながら僕は「戦車（洗者）ヨハネ」になると言い出したそうです。お母さんが何のことかよくわからず、落ち着いて話を聞いてみると、それは、今日の第一朗読のイザヤの箇所を彼なりに理解して、「主のために、荒れ野に道を備え、・・・荒れ地に広い道を通せ。谷は埋められ、山と丘は削られ、険しい道は平らに、狭い道はひろい谷となれ・・・」男の子の多くは建築現場が大好きですから、ブルトーザーで働いている姿を思い浮かべたようです。洗礼者を洗者と言ったので、戦車と聞き取っていたようです。それで、彼は自分が戦車ヨハネのようになって主の道を整えると・・・

「果報は寝て待て」と言いますが、救い主を迎えるのは「寝て待て」ではありません。働かなければなりません。働くと言っても「師走」だからと言って、東奔西走の生活ではなく、先週の大きなテーマだった「目覚めている」ことです。

目覚めると、いろいろなことに気づきが出てきます。マザーテレサは愛の反対は憎しみではなく、「無関心」と言われました。目覚めて来ると、自分のこれまでの見方も変わります。人や物事の見方が変わると、今まで気づかなかったことが見えて、人に対しても味方になることも可能です。

悔い改めるとは、自分の過去や欠点を考えるよりも、むしろ自分の立ち位置を変えることによって目覚めさせられたり、物事を見る角度が変わって、新たな生き方へと歩み始められること、このような回心が可能になるのではないのでしょうか？